

岡山市新庁舎 基本設計（素案）要約版

令和3（2021）年 1月

目次

1.計画概要	1-1.基本的な考え方	……………A-1
	1-2.設計コンセプト	……………A-2
	1-3.敷地・建築概要・スケジュール	……………A-3
2.建築計画	2-1.動線計画・施設構成	……………A-4
	2-2.各階計画	……………A-5～7
	2-3.防災計画	……………A-8
	2-4.環境計画	……………A-9

基本設計段階であり、今後実施設計を進める中で変更が生じる場合があります。

1. 計画概要

1-1. 基本的な考え方

新庁舎は、「本庁舎整備等基本構想」における5つの基本理念と、「本庁舎等整備基本計画」における5つの整備方針を踏まえ計画します。

<庁舎整備の基本理念>

- 1 市民に親しまれるおもてなしのある庁舎
～ユニバーサルデザイン、市民交流の場の創出
- 2 安全・安心、災害に強い庁舎
～防災拠点の整備
- 3 将来の変化に対応できる機能的・効率的な庁舎
～行政サービスの向上と事務の効率化
- 4 自治体の顔・まちづくりの拠点となる庁舎
- 5 環境に配慮した庁舎

<機能別整備方針>

1 市民窓口機能

- わかりやすく利用しやすい窓口
- お待たせしない窓口
- ICT（情報通信技術）を活用したスマート窓口

2 交流・協働機能

- 市民に親しまれる庁舎
- 人と人、人とまちをつなげる庁舎

3 執務機能

- 機能的な執務空間
- コミュニケーションが活性化するレイアウト
- だれもが働きやすく、快適な執務環境
- 将来の変化にも柔軟に対応できるフロアデザイン

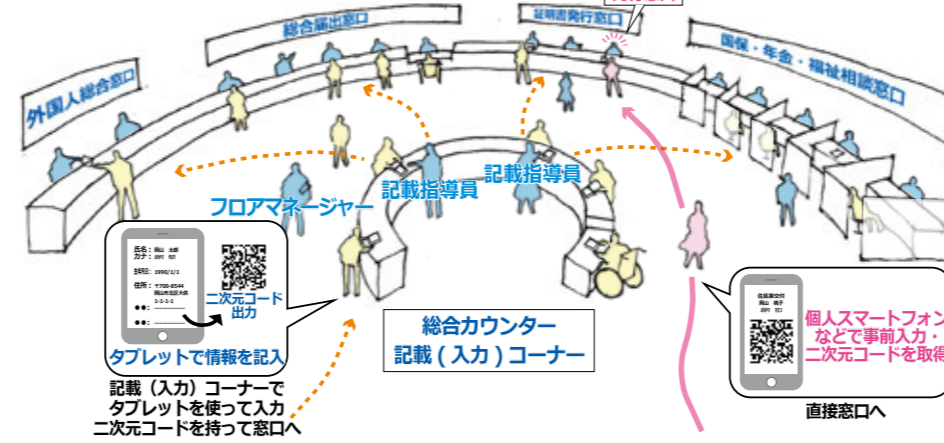
4 防災拠点機能

- 災害対応の司令塔となる防災拠点機能の充実
- 円滑な災害対応ができる空間構成
- 防災拠点としての耐震安全性と業務継続性の確保

5 周辺施設・まちづくり

- だれもがアクセスしやすい庁舎
- 市民が日頃から憩い、交流の場となる公園・広場
- まちのシンボルとして、市民が誇れる自治体の顔となる庁舎

1. 市民保険年金課の窓口イメージ



2. 交流・協働機能



5. まちのシンボルとなる庁舎のイメージ（北方面から）



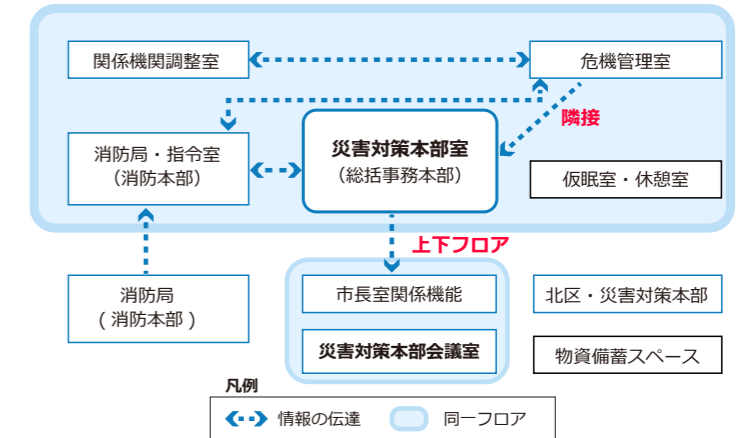
5. 交流の場となる公園・広場のイメージ



3. 執務機能



4. 防災拠点の構成イメージ



1-2. 設計コンセプト

「人」が集まり、「まち」と繋がり、「歴史」を重ねる「丘のような庁舎」



庁舎イメージ (北西側から)

1 岡山駅～市役所筋～大供交差点
～新大供公園・市民ひろば・新庁舎
「人」が集まり、「まち」と繋がる立体回遊広場を持つ庁舎

- 「人・空間・機能」の相互作用を誘発する立体回遊広場
新大供公園・市民ひろば（段々ひろば・大屋根ひろば）等様々なスケールの広場は、庁舎機能（市民・議会・行政）・利便施設・駐車場と結びついた立体回遊広場となり、「人・空間・機能」の相互作用が生まれる魅力的な庁舎を実現します。
- まちをつなぎ、賑わいを創出する利便施設
新大供公園や段々ひろばに面し、東西の街路からもアプローチが可能な利便施設は、人が集い、活気のあるまちの賑わいを庁舎（市民ホールや大屋根ひろば）へ誘導し、回遊性を高める役割を果たします。
- 新大供公園を介して庁舎とまちをつなぎ、様々な活動・人の流れを受けとめる受け皿
新大供公園、市民ひろば、庁舎のコラボレーション機能をひな壇状に連続させ、様々な特徴を持つ場を提供することで、市民の様々な活動を受け入れます。

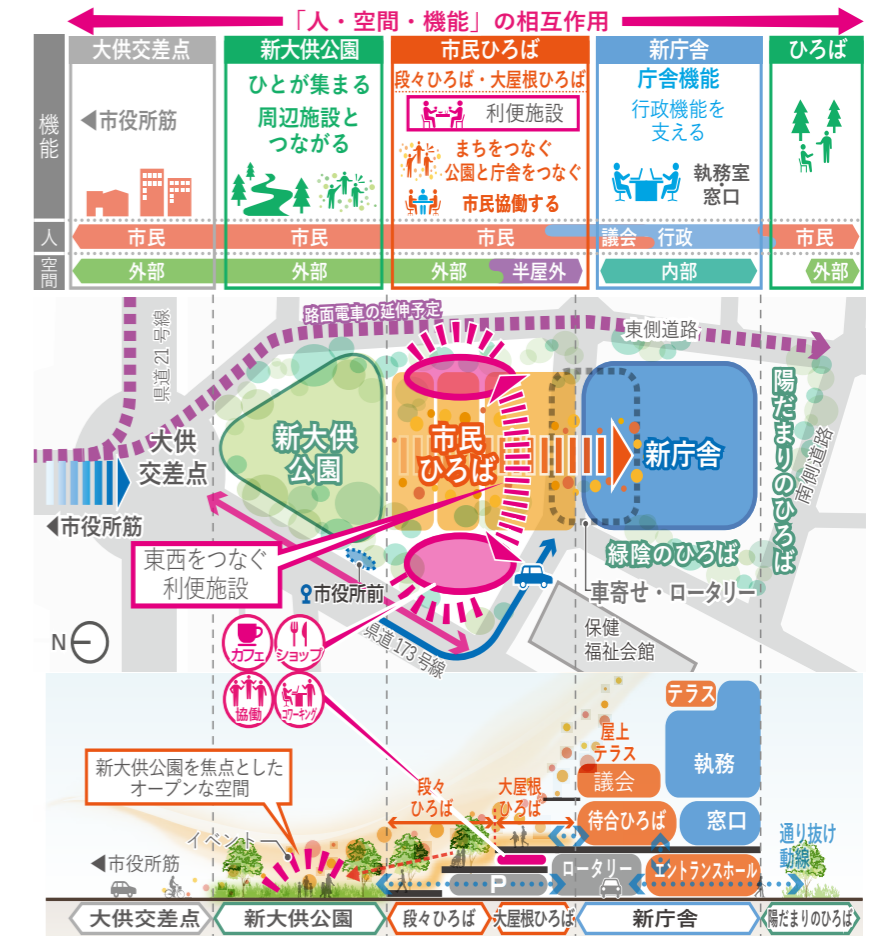
2 「緑 & 庁舎の活動（市民・議会・行政）」がシンボルとなる庁舎を市役所筋の正面に配置

- 庁舎の活動が緑の中に表出する景観
敷地北側に、緑豊かな市民ひろば（段々ひろば・大屋根ひろば）を配置するとともに、庁舎北面に議場やワークラウンジ、展望テラス等を配置し、様々な活動が市役所筋の正面に重層的に表出する景観を創出します。
- 市役所筋に空が広がる中層庁舎
庁舎の高さを極力抑え、市役所筋から青空への抜けをつくる景観とします。また、庁舎外壁を傾斜させることで、市役所筋からの視線や風を受け流すイメージで快適な環境形成を図ります。

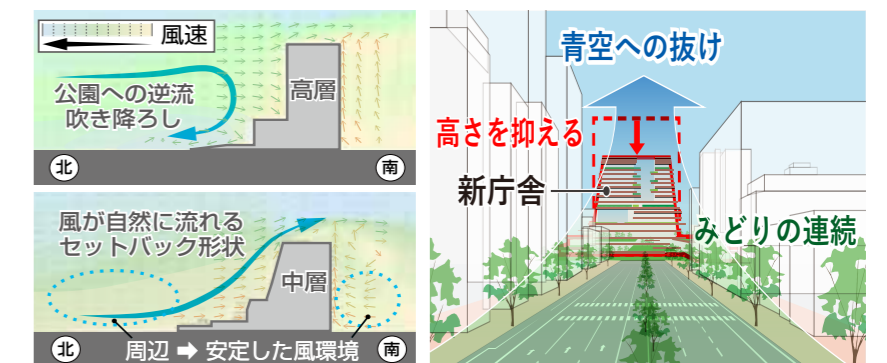
3 烏城公園・岡山城天守閣と対を成す空間構成・デザインと視点場の形成

- 烏城公園に「見立て」た空間構成
新大供公園と市民ひろば（段々ひろば・大屋根ひろば）の構成は、岡山城の一二三の段と呼ばれる本丸の構成をモチーフとします。
- 岡山らしさ
外観は岡山城の屋根の重層性をモチーフに、底が重層するデザインとし、城の色彩や地元産材を取り入れたデザインとします。
- 公園から中心市街地までスケールの異なるまちを見渡せる立体ひろば
庁舎と一体になった屋内外の高低差をもつ“ひろば”を生み出し、それぞれの視点場から周辺市街地の様々な表情を楽しめるように計画します。

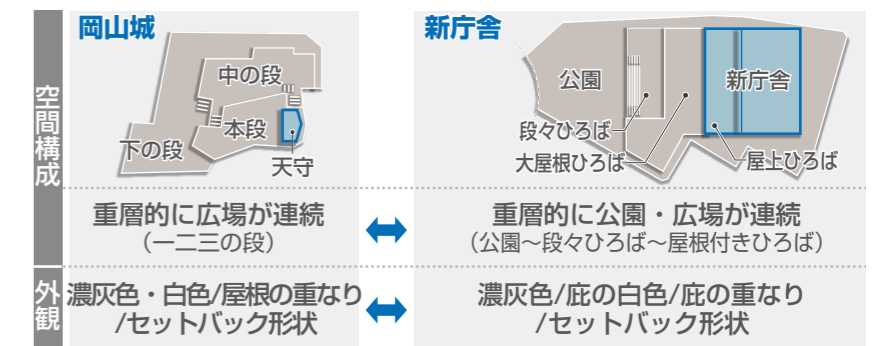
1 「人・空間・機能」の繋がりと相互作用



2 市役所筋からの風や視線が抜ける形状



3 烏城公園・岡山城天守と対を成す新庁舎の空間構成・デザイン



1-3. 敷地・建築概要・スケジュール

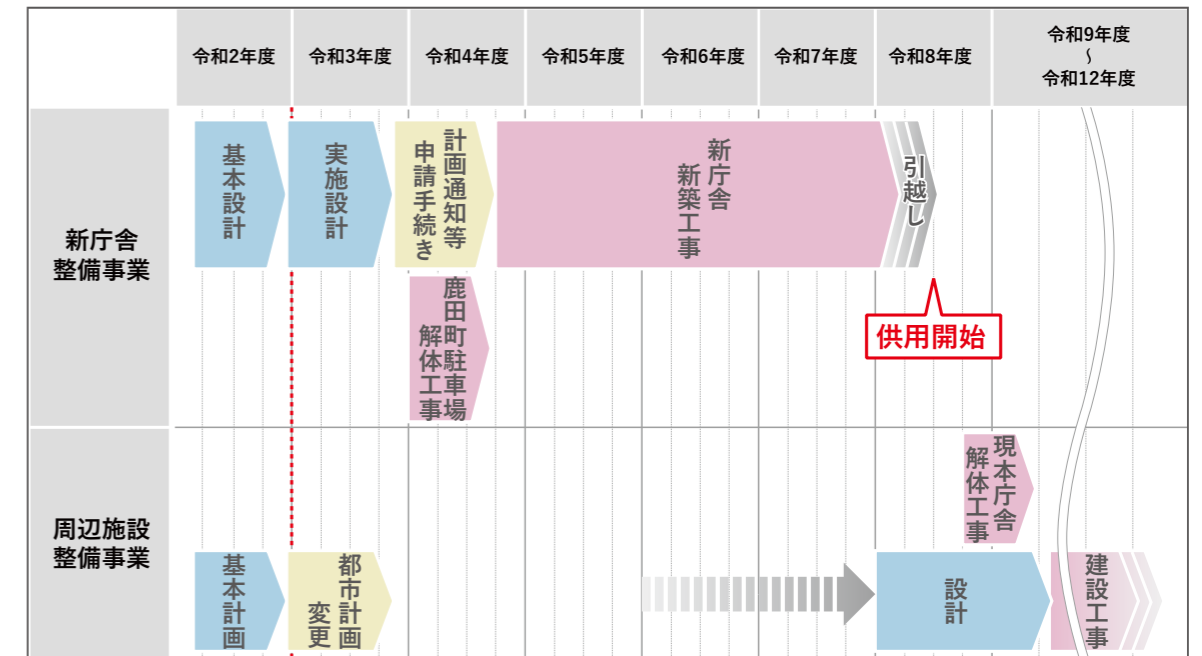
敷地概要

計画地 : 岡山市北区大供一丁目1番1号 他
 用途地域 : 商業地域
 防火指定 : 防火地域 / 準防火地域
 敷地面積 : 5,997 m² / 7,928 m² 合計: 約 14,000 m²
 指定容積率 : 500% / 400% 加重平均: 443%
 指定建ぺい率 : 80% ⇒ 90%
 (角地: 10%緩和)
 周辺道路等
 北側: 新大供公園 (整備予定)
 東側: 市道現況幅員 15 m
 南側: 市道現況幅員 6m (拡幅予定)
 西側: 市道現況幅員 11m (拡幅予定)
 県道 (173 号線) 現況幅員 36m

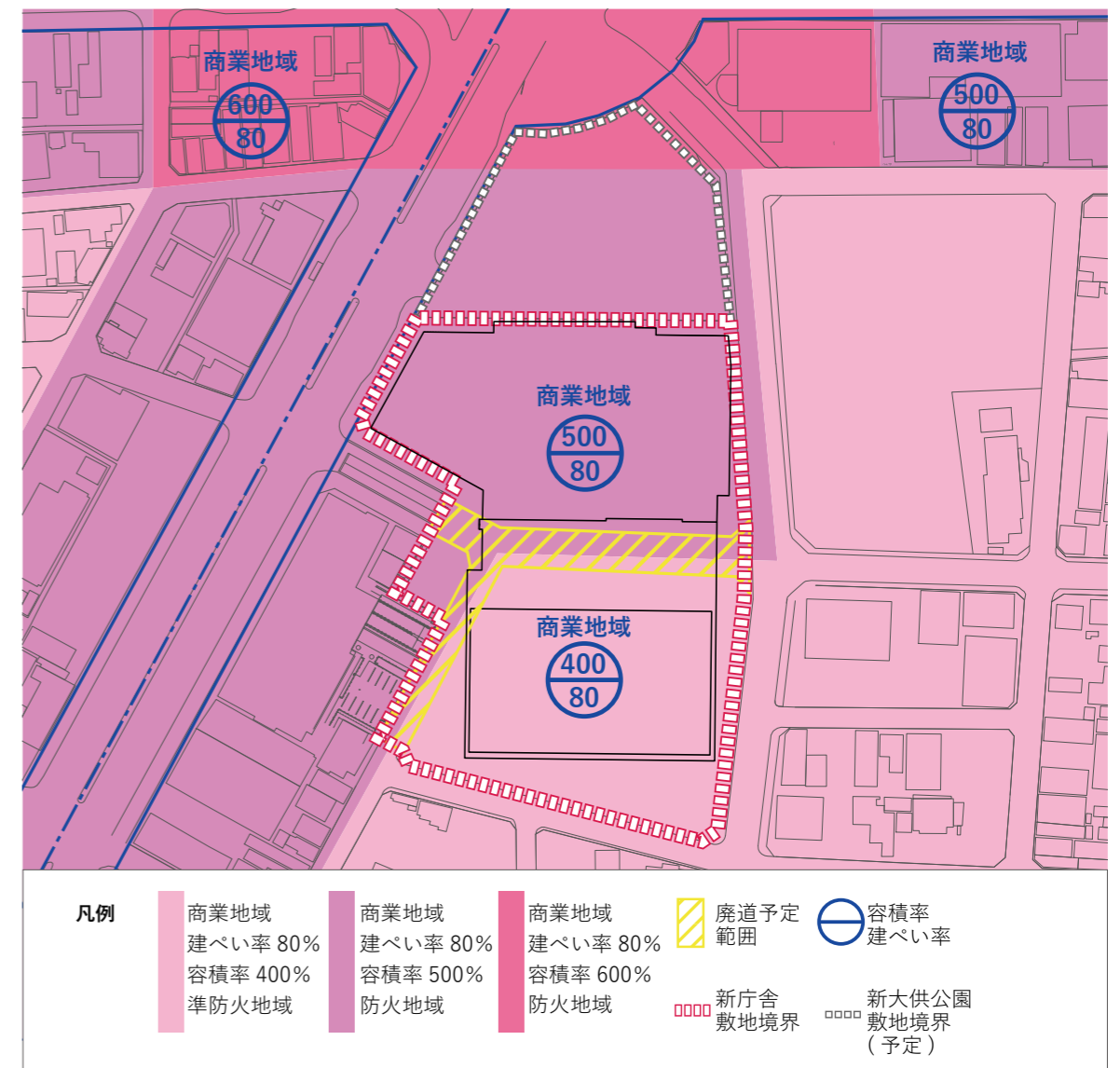
建築概要

主要用途 : 庁舎
 構造 : 鉄骨造 (一部、鉄骨鉄筋コンクリート造
 および鉄筋コンクリート造)
 中間免震+制振構造
 階数 : 地上 17 階 (中 2 階を含む)
 地下 2 階
 最高高さ : 約 87 m
 建築面積 : 約 5,000 m² (建蔽率 約 36%)
 延べ面積 : 約 56,300 m²
 容積対象面積 : 約 50,000 m² (容積率 約 360%)
 駐車場 : 地下駐車場 128 台
 大型車用駐車場 4 台
 搬入用駐車場 26 台
 駐輪場 : 駐輪場 122 台

全体スケジュール (予定)



敷地周辺の状況



用途地域図

2. 建築計画

2-1. 動線計画・施設構成

動線計画

多様なアプローチ動線

大供交差点から立体的な広場を楽しみながら、2階の市民窓口フロアに直接アプローチできます。また多様な来庁手段に応じ、適切な位置に出入口を設けます。

アクセスしやすい車動線

庁舎西面の県道173号線交差点から東に直進すると、地下駐車場へのスロープにアクセスします。



S=1:2000

1階アプローチイメージ



周辺施設整備事業 (2期)
新庁舎整備事業 (1期)

2階アプローチイメージ

施設構成

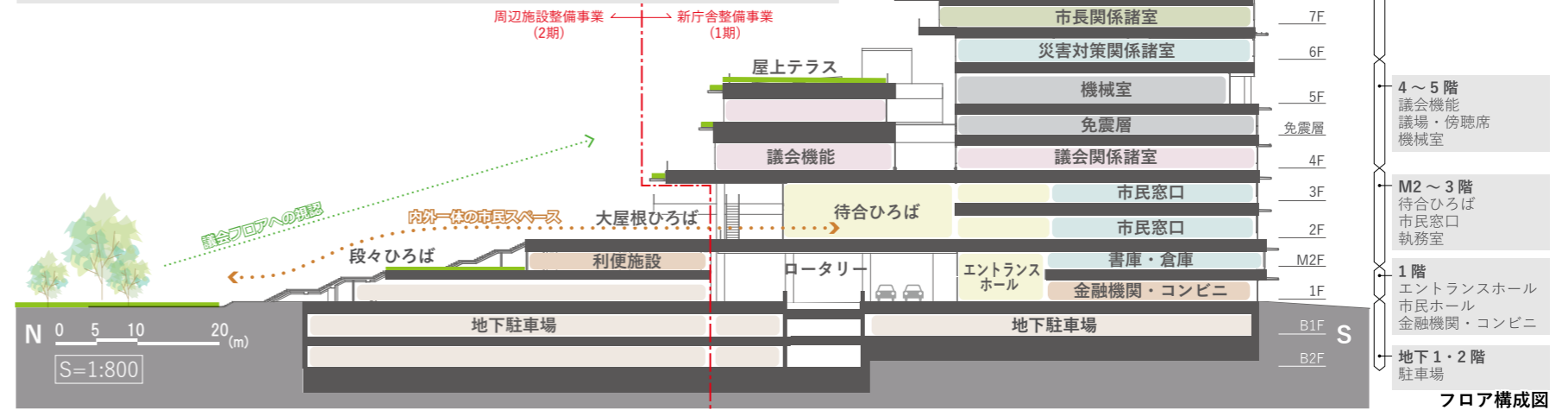
広場と連続し、市民に開かれる断面構成

2階の市民窓口にある待合ひろばは、大屋根ひろばとつながり、屋内外が一体となった市民スペースを実現します。庁舎1階のエントランスとつながる車寄せ・ロータリーは大型バスが利用できる高さを確保するとともに、一部に中2階を設けて、スペースの有効利用を図ります。

議会機能は、市民に身近で開かれた議会として、広場からも視認できる4～5階に設けます。

段階的に形成される街並みとの連続性

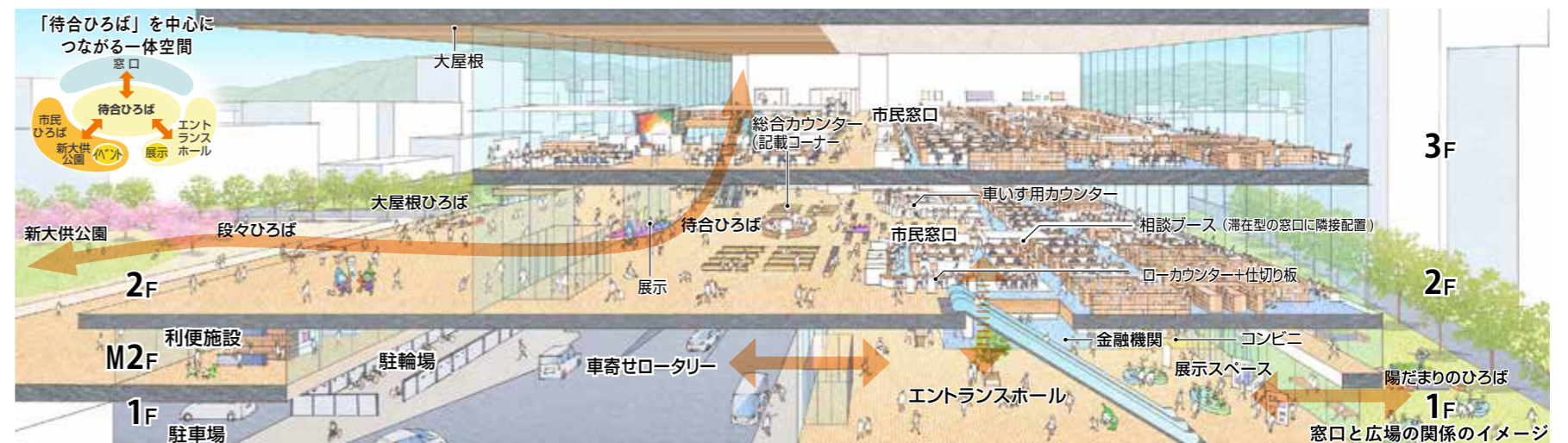
周辺施設整備事業(2期工事)の便利施設は、広場に面してカフェ・レストラン等の店舗を設け、公園や立体回遊広場と融合して、街並みと賑わいを形成します。また便利施設の屋上は、市民ひろば(段々ひろば・大屋根ひろば)とも親和性を持たせ、大供交差点から庁舎窓口まで連続させた緑と、くつろぎやにぎわいの空間を形成します。



フロア構成図

新大供公園～段々ひろば～大屋根ひろば～待合ひろば～窓口まで、内外のひろばが連続し、賑わいが生まれる空間構成

段々に連続する3つのひろばと、2層吹抜けの待合ひろばを連続させ、緩やかな階段等で繋ぐことで、車いす・ベビーカー、高齢者など誰にとっても分かりやすく、利用しやすい施設づくりを行います。加えて、1階の市民ホール・南側の陽だまりのひろばともエスカレーターで繋ぐことで、1～3階まで様々な活動が連続し、賑わいの核となる空間を形成します。



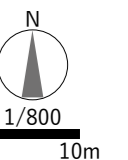
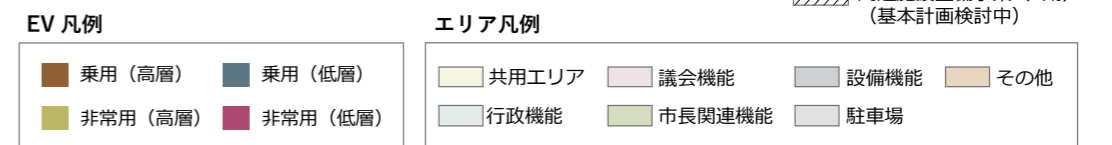
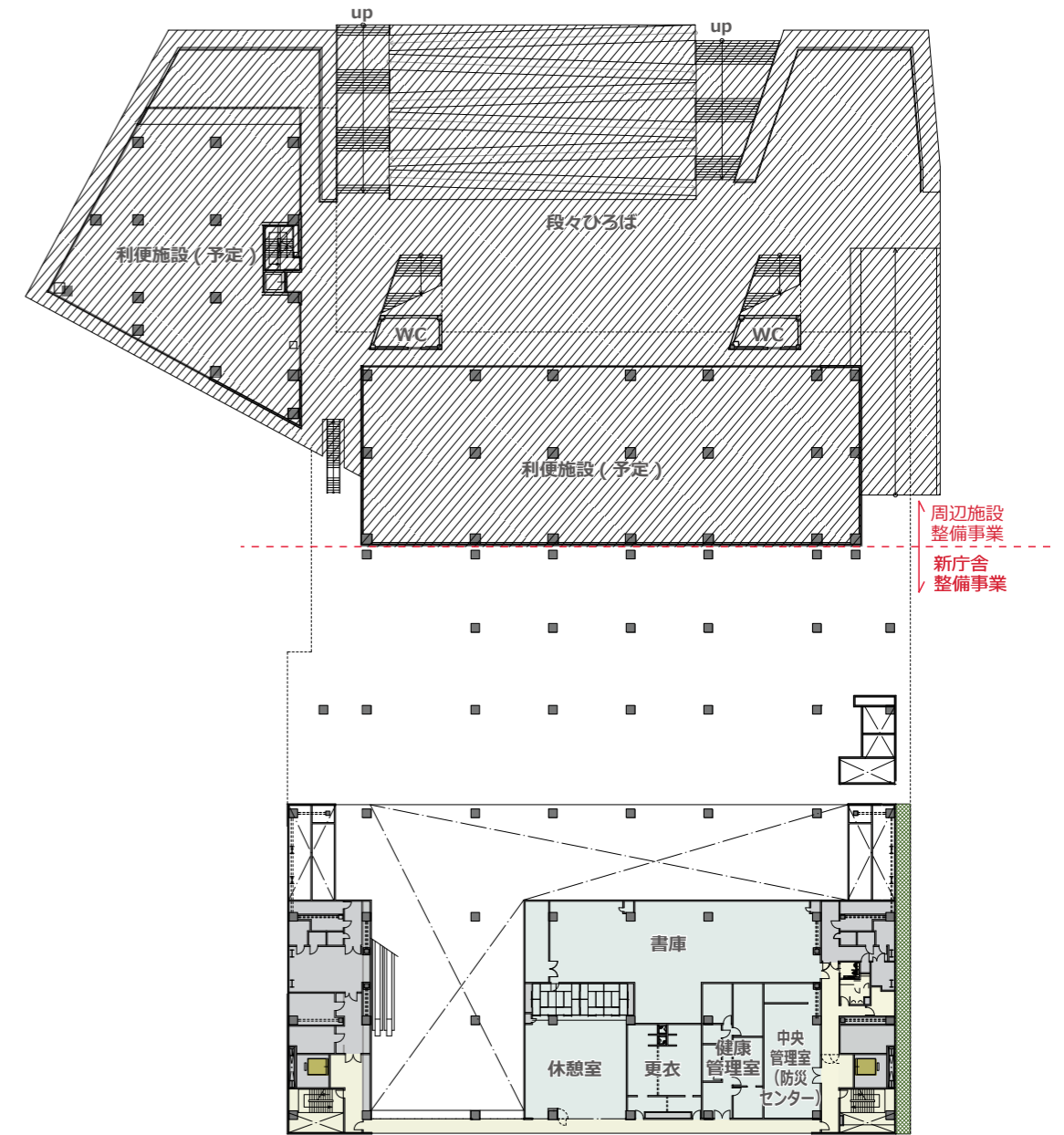
窓口と広場の関係のイメージ

2-2. 各階計画

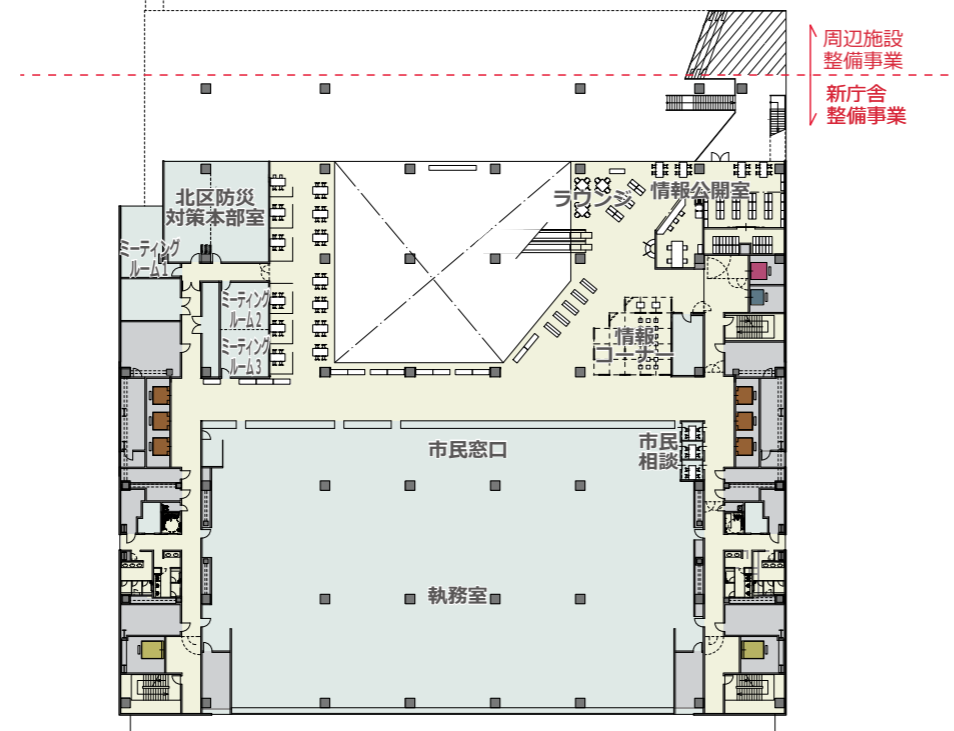
1階 (配置図) 車寄せ・ロータリーを中央に据えた庁舎の主玄関



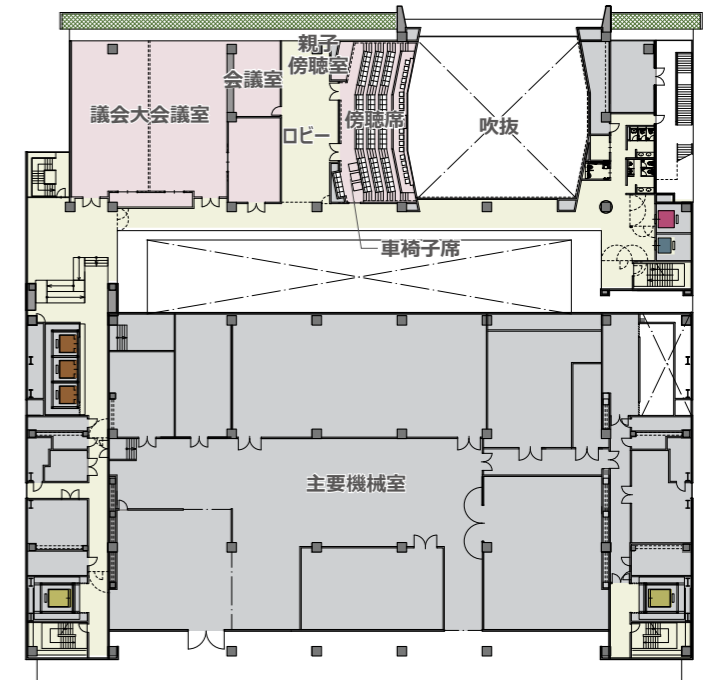
中2階 中央管理室 (防災センター) 他



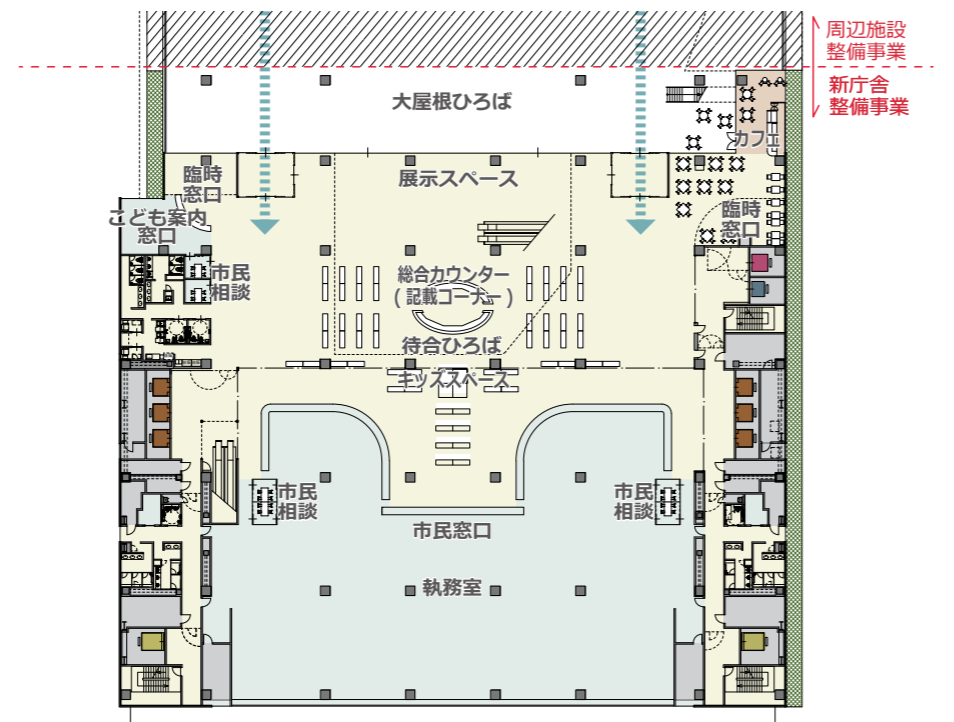
3階 市民窓口・北区役所



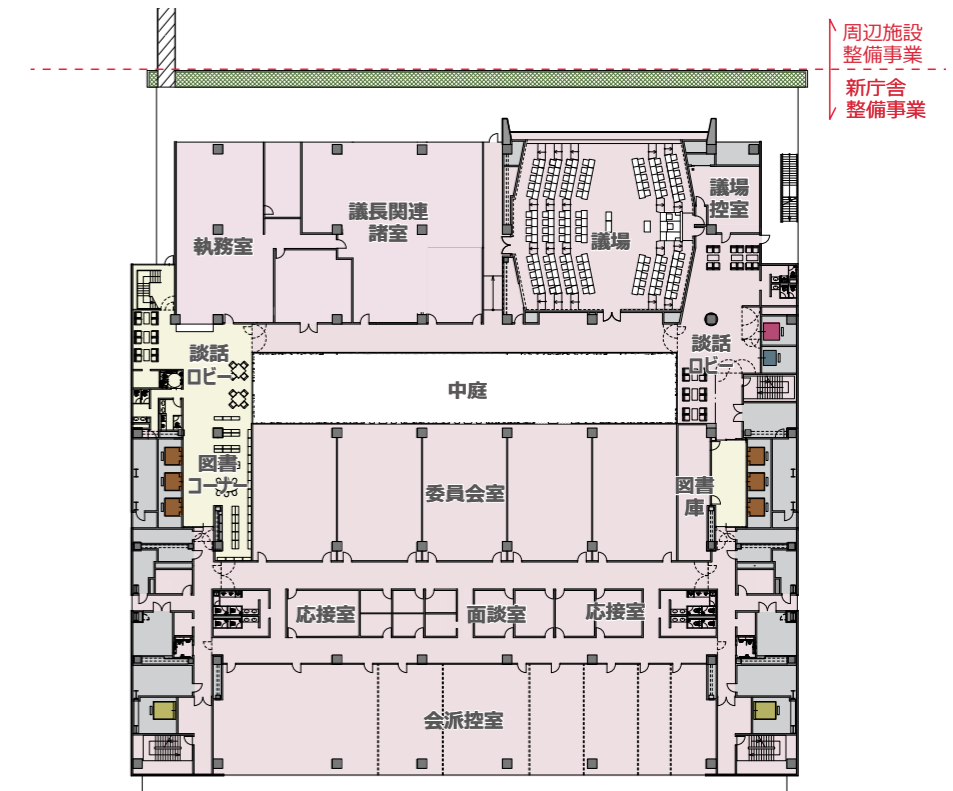
5階 議会関係諸室および主要機械室



2階 市民窓口・北区役所



4階 議会関係諸室



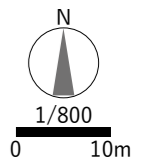
周辺施設整備事業 (2期)
(基本計画検討中)

EV 凡例

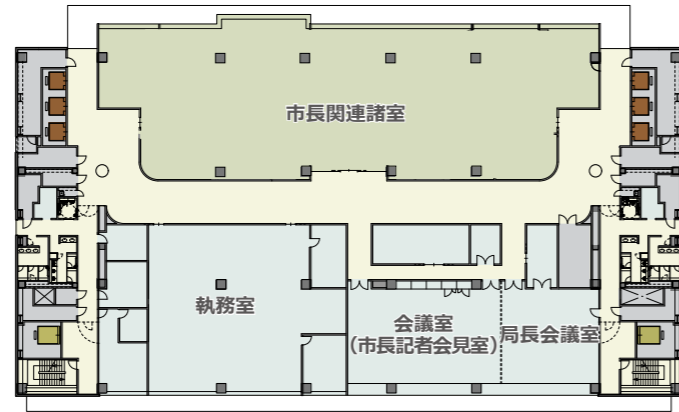
乗用 (高層)	乗用 (低層)
非常用 (高層)	非常用 (低層)

エリア凡例

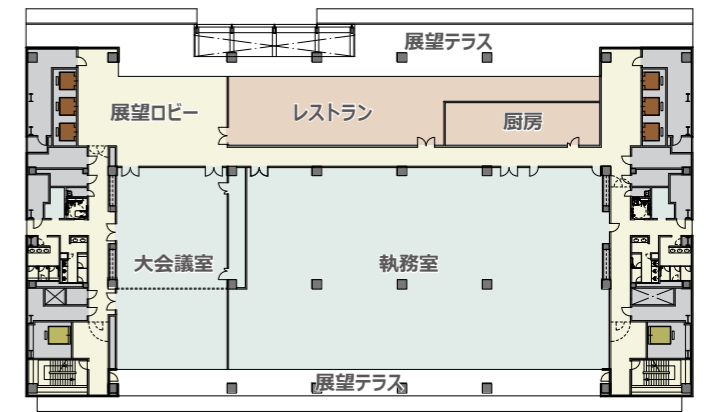
共用エリア	議会機能	設備機能	その他
行政機能	市長関連機能	駐車場	



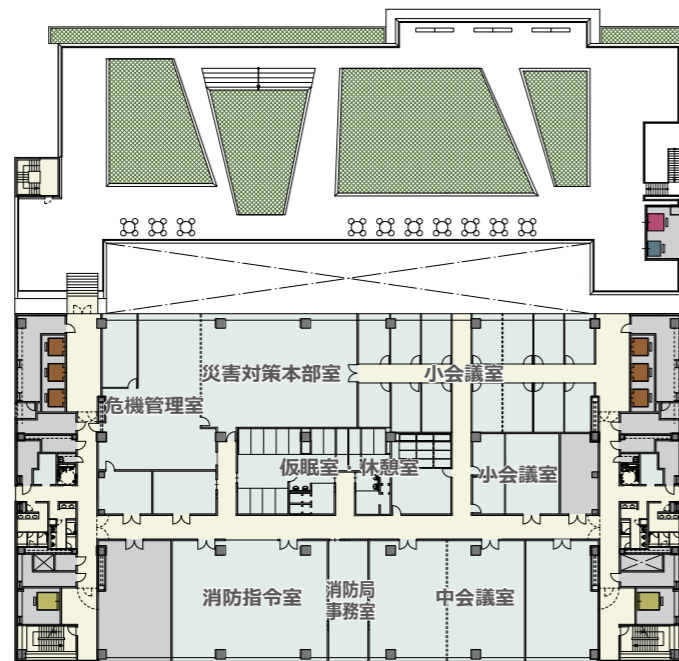
7階 市長関係諸室



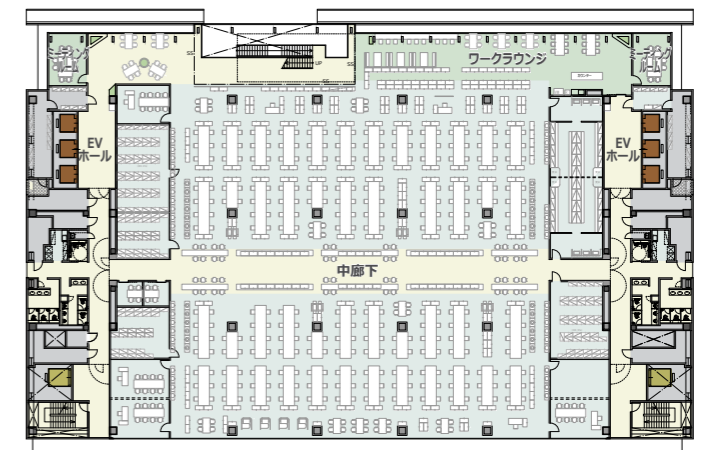
15階 大会議室、レストラン、執務室



6階 災害対策関係諸室



8-14階 執務室

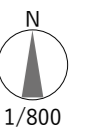


EV 凡例

乗用 (高層)	乗用 (低層)
非常用 (高層)	非常用 (低層)

エリア凡例

共用エリア	議会機能	設備機能	その他
行政機能	市長関連機能	駐車場	



2-3. 防災計画

防災拠点機能の強化

市民の安全安心を支えるために、庁舎周辺で想定される様々な自然災害（地震・水害など）に加え、都市型災害（大規模停電など）にも対応し、業務継続が可能な防災拠点機能の強化を図ります。

免震構造と制振構造のハイブリッドとした中間免震構造 **地震対策**

- 大地震時に主要機械室や災害対策関係諸室の機能確保を図るため、「免震構造」を採用します。
 - 免震層位置は中間層とし、来庁者の多い低層部は、免震エキスパンション可動部への立ち入りなどの危険性に配慮します。
 - 免震層下部には、制振ダンパーを配置して地震時の揺れを抑え、天井落下や什器転倒等のリスクを低減します。
 - コア回りの耐震ブレースと最上階に設けたハットトラス*により、「メガフレーム*」を構成し、耐震性を向上させます。
- ※3. 構造計画 S-2 構造概要パース参照

豪雨・洪水等への対応 **水害対策**

- ハザードマップの浸水想定高さ（+500 mm未満）より1階床を高く（GL+800 mm）設定します。
- 主要な設備機器は浸水の恐れがない5階に配置します。
- 駐車場出入口などへ防潮板を設置し、地下ポンプ室などの扉は水密タイプとし、地階の水損に備えます。

電力会社からの電源途絶に対する複数の電源対応 **停電対策**

- 電力会社からの引込みは2回線とし、信頼性を高めます。
- 備蓄燃料による3日間の非常用発電設備、耐震性の高い中圧都市ガスを用いたコージェネレーションシステムの採用に加え、電源車対応設備を備え、電源を確保します。
- サーバー機器等の重要機器にはUPS（交流無停電電源装置）から電源供給し、停電や一時的な電圧低下によるデータ損失リスクを回避します。

中圧ガスの採用 **エネルギー対策**

- 耐震性が高く途絶しにくい中圧ガスを引込み、空調やコージェネレーションに供給します。

柔軟な機能転換 **スペース対応**

- 1階エントランスホールでは一時避難者を受け入れます。収容人数は約200人を想定しています。
- 2階は応急的な臨時窓口（り災証明など）や災害ボランティアの受付窓口へ転換し、支援物資の搬入はロータリー及び1階駐車場（2期工事）を利用することで、物資と人の動線を明確に分離します。
- 2期工事の新大供公園や段々ひろばでは、給水車の乗入れや便利施設と連携し、炊出しを行うことも想定しています。
- 災害時に必要となる空間や動線をあらかじめ見込んだ庁舎とし、日常→災害への迅速な機能転換を行い、人や物流の混乱リスクを低減します。

災害対策本部室



出典：国土交通省ホームページ <https://www.mlit.go.jp/>

災害対策本部会議

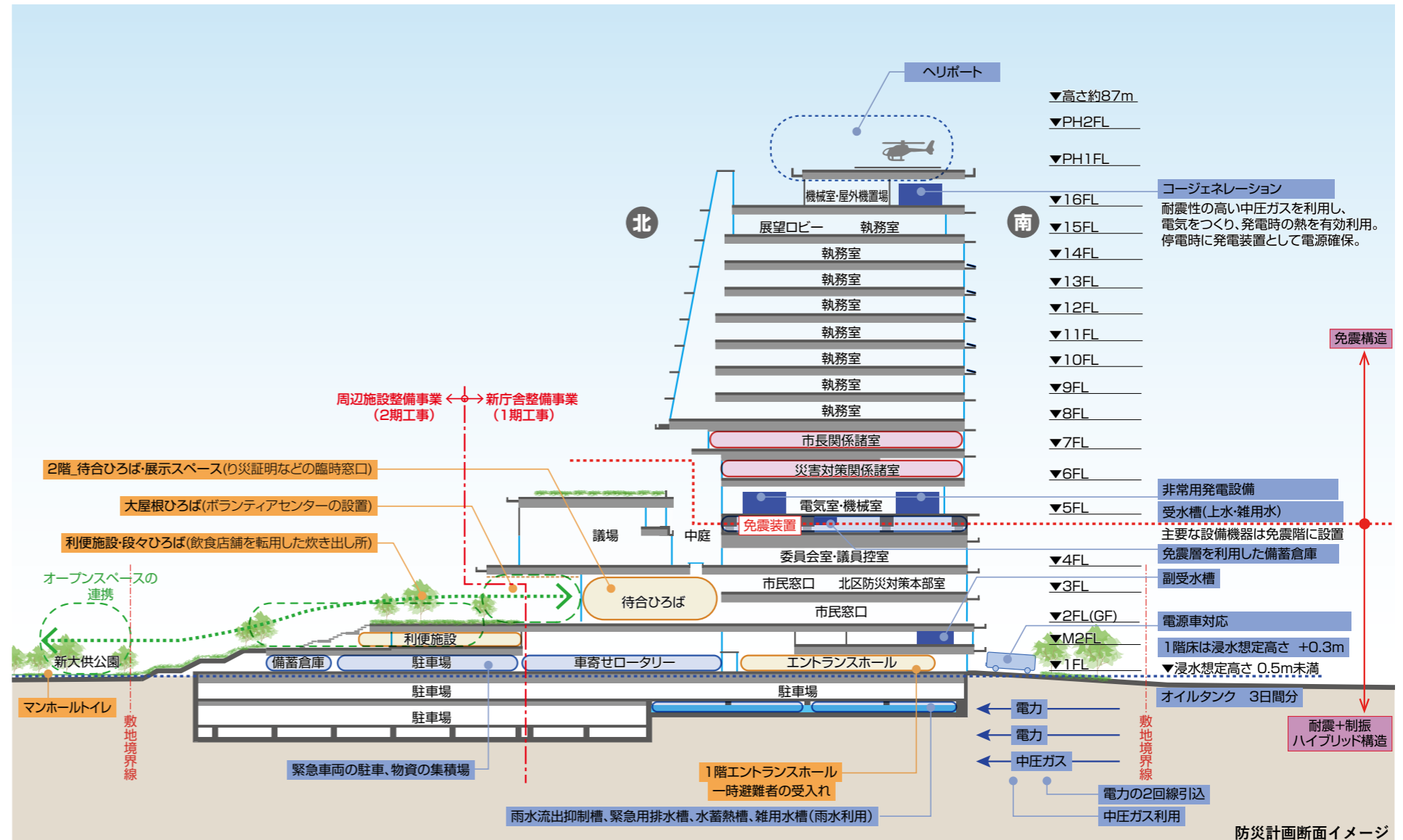


出典：国土交通省ホームページ <https://www.mlit.go.jp/>

将来的には有人ドローンも活用（ヘリポート）



出典：経済産業省資源エネルギー庁ホームページ <https://www.enecho.meti.go.jp/>



マンホールトイレ（新大供公園）



出典：国土交通省ホームページ <https://www.mlit.go.jp/>

物資集積（駐車場・ロータリー）



出典：農水省広報誌 aff(あふ)2019年9月号 https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/1909/spe1_04.html

一時避難時のスペース活用（エントランスホール）



出典：政府広報オンライン <https://www.gov-online.go.jp/>

臨時窓口・ボランティアセンター（待合ひろば）



出典：災害写真データベース <http://www.saigaichousa-db-isad.jp/>

2-4. 環境計画

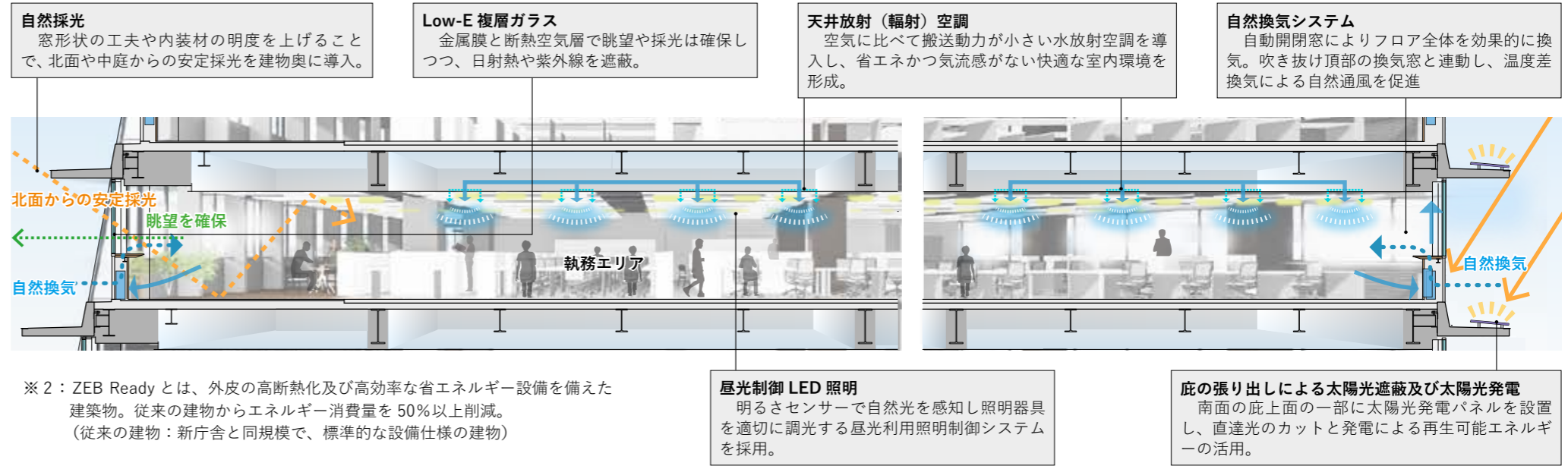
岡山市の気候特性と建物形状を生かした省エネ庁舎

外部熱負荷を受けにくい外装計画を基本に据え、晴天率が高く冷房期の夜間気温が低い地域気候特性を活用したパッシブデザインや、高効率機器や再生可能エネルギー利用など実効性の高い環境技術の採用で、CO₂ 発生を低減する省エネルギー庁舎を実現します。

ZEB Ready の達成

エネルギー消費を抑えた快適な生活環境を確保するパッシブデザイン^{*1}を採用することで、従来の建物で必要な一次エネルギー消費量から50%以上削減するZEB Ready^{*2}の達成を目指します。

※1：パッシブデザインとは、冷暖房設備等の機械に依存せず、適切な断熱や日射調整（取得と遮蔽）、通風、蓄熱等、建物そのものの工夫によって、自然や環境がもっているエネルギー（日射・気温・風・雨水・地熱など）を上手に利用できるように建物を設計すること。



※2：ZEB Ready とは、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建築物。従来の建物からエネルギー消費量を50%以上削減。
(従来の建物：新庁舎と同規模で、標準的な設備仕様の建物)

